

## 外為短観レビュー マイナーチェンジの概要

### はじめに

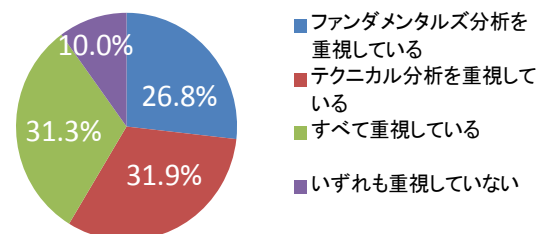
外為どっとコム総合研究所は、2009年6月の創業以来、その設立母体である外為どっとコムの協力を得て、毎月定期的に外国為替保証金取引(FX)投資家動向に関するアンケートを実施するとともに、その結果を「外為短観」として公表している。2013年10月の第53回調査までは、外為どっとコムの「外貨ネクスト」に口座を持つ投資家を対象としてきたが、新取引システムである「外貨ネクストネオ」が稼動9ヶ月目を迎えたのを機に、11月の第54回調査から対象を「外貨ネクストネオ」に口座を持つ投資家にも拡大する事とした。これに伴い、アンケートの質問項目などに若干の変更を加えてマイナーチェンジを行ったため、今回のレポートでは、変更された質問の内容とその背景、さらには新取引システムの特性によるとみられる回答傾向の変化などを考察してみる事にする。

### アンケート項目の廃止と追加

第53回までの調査と、第54回調査における変更点は「FX投資をする上で、ファンダメンタルズ分析とテクニカル分析のどちらを重視しますか」という質問と「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因は」という2つの質問を廃止した上で、「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください」を新質問項目として追加した事である。相場分析手法に関する質問については、過

去4年半に及ぶアンケート調査で延べ11万人の回答を得たが、比較的相場が大きく変動した時期においても回答割合に顕著な変化が見られなかった。このため、FX投資家の相場分析手法の志向に関しては、一定の傾向が掴めたものと判断して、調査を打ち切る事とした。なお、調査開始以来の回答割合は、ファンダメンタルズ重視派が26.8%、テクニカル重視派が31.9%、両方重視派が31.3%、いずれも重視しない派が10.0%となっており(図1)、テクニカル分析に比重を置く投資家が比較的多い点が特徴的だ。

あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか



(図1)2009年6月～2013年10月のアンケート調査全てにおける回答割合

同様に、「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」の質問についても「各国の金融政策格差」に約7割の回答が集中する傾向に変化がなかったため廃止した。なお、ユーロ圏債務問題が混迷を深め、ユーロ崩壊の可能性さえ取り沙汰された2010年～11年当時においても「各国の財政収支動向」に最も注目した割合は

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

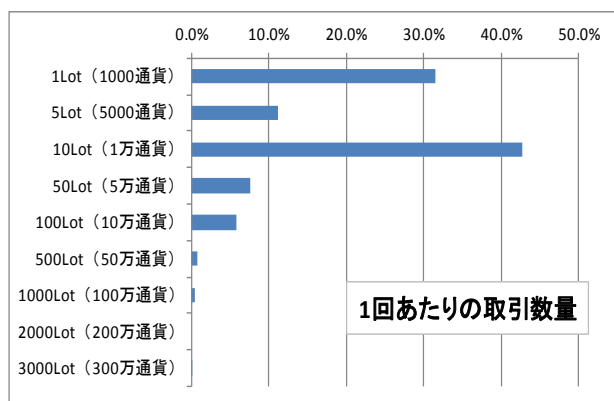
Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

40%近傍がせいぜいであり、「各国の金融政策格差」を超える事はなかった。こうした点から、FX投資家がファンダメンタルズ分析を行う際に最も注目するファクターは金融政策であり、相場環境などの変化によっても大きく変わる事はないと判断して、調査を打ち切る事にした。

その上で、第54回調査から「一度に注文する注文数量」の質問項目を新たに追加した。これまでの質問にもあった「保証金(証拠金)」と「レバレッジ」に加え、「注文数量」を調査項目に加える事によって、FX投資家の投資動向の実態をより正確に捉える事を目的とした措置である。

### 「一度に注文する数量で最も近いものは？」

11月の新調査項目である「一度に注文する注文数量で最も近いものは？」に対する回答結果は、「10Lot(1万通貨)」と答えた割合が42.8%と最も多く、以下「1 Lot(1000通貨)」が31.5%、「5 Lot(5000通貨)」が11.2%、「50Lot(5万通貨)」が



(図2)2013年11月調査「一度に注文する注文数量」

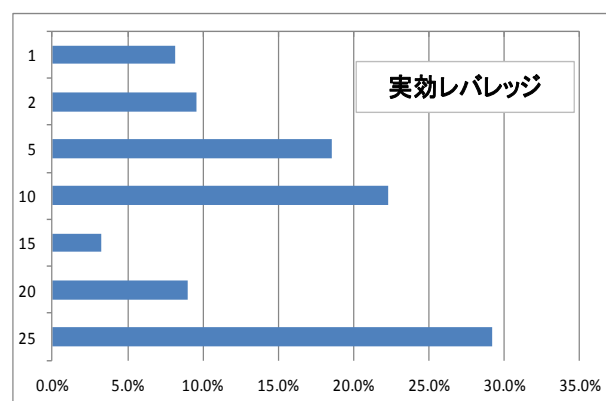
7.6%、「100Lot(10万通貨)」が5.8%と続いた。(図2)

比較的ポジション管理が簡単と思われるキリの良い「10Lot(10000通貨)」や「1 Lot(1000通貨)」で取引を行う投資家が多い事がわかった。今後、相場変動の度合いが強まった際などに、FX投資家の注文数量にどのような変化が表れるのか確認していきたいと考えている。

### レバレッジに変化

「外貨ネクスト」と「外貨ネクストネオ」では、レバレッジに関する取り扱いが異なる。「外貨ネクスト」では、5倍や10倍、25倍といった任意のレバレッジを取引ごとにFX投資家自身が選択する必要があったが、新取引システム「外貨ネクストネオ」では選択の必要がなく、「実効レバレッジ」が自動的に算出される方式となっている。

新システム「外貨ネクストネオ」への口座の移行がある程度進んだ11月新調査に対する回答結



(図3)2013年11月調査「実効レバレッジ」

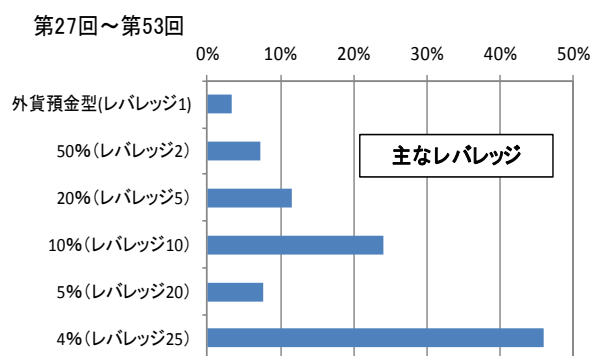
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

果は、「25倍(前後)」と答えた割合が29.2%と最も多かった(図3)。ただ、「外貨ネクスト」の口座を対象としていた10月(第53回調査)までは、25倍が平均で50%近くに達しており(図4)、新調査の下でその割合は大幅に低下した格好だ。

なったものと考えている。

なお、「外貨ネクスト」は2013年12月21日をもって稼働を終える予定であり、その後は新取引システム「外貨ネクストネオ」に完全移行となる。今後の回答動向に注目しておきたい。(了)



(図4) 2011年8月～2013年10月調査「主なレバレッジ」  
最高レバレッジが25倍(保証金率4%)に規制されて以降の割合を表示

「外貨ネクスト」での取引については、投資家が最高倍率の25倍を選択しても、建玉が全体保証金率が4%に達するケースは少なかったと見られる。つまり、投資家が25倍のレバレッジを選択して取引した場合でも、実際の建玉は保証金の25倍に達していないケースが多かったと見られるが、アンケートには「25倍」と答えた可能性が高い。しかし新システム「外貨ネクストネオ」を対象とした新調査では「実効レバレッジ」が表示されるため、そうした齟齬は減少する事になる。したがって、外為短観のマイナーチェンジによって、より投資家の実態に近いアンケート結果が得られる事に

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com